

特集

自己点検・評価に取り組むクラブ

NPO法人こうかサスケくらぶ ＜滋賀県甲賀市＞

自立・自律したクラブへと至るためには、クラブ理念を踏まえ、将来的な到達点を明確にした目標を設定する必要があります。そして、その達成に向けた具体的な取組計画を策定した上で、計画に基づく活動を着実に実行し、その内容及び効果を定期的に検証することによって常に改善を図っていくといったPDCAサイクルによって取り進めることが重要です。

そこで、今回は、本会が2014年度に作成した「持続可能な総合型クラブの推進に向けた取組の指針と評価指標(以下「自己点検・評価」という)」の活用方法と実際に「自己点検・評価」を活用するクラブの事例を紹介します。



1 クラブ概要

私たちの地域では昭和56年の国民体育大会(びわこ国体)を機に「スポーツ都市宣言」を掲げ、地域住民のスポーツ振興に力を入れるとともに、すべての地域住民がスポーツに親しむ明るく住みよいまちづくりに努めてきました。しかしながら、総合型地域スポーツクラブ設立検討委員会で実施したアンケート調査では、週1回以上スポーツを行っている成人の割合は、4人に1人という結果で、他の地域の実施率を大きく下回っていました。

そこで、まず健全な子どもの育成を願い、小学生の多種目型スポーツ教室を開講しました。これを機に、子どもから高齢者まで多世代にわたり、「いつでも、どこでも、だれでも」気軽にスポーツが楽しめる総合型地域スポーツクラブ「こうかサスケくらぶ」を設立し、地域のコミュニティの活性化と、健康で明るいまちづくりを目指して活動してきました。現在8教室と障害者スポーツ教室を開催し、その他イベントや大会も計画しています。

2 運営委員会内のクラブ認知度の認識に温度差 →自己点検・評価導入用

随時開催される運営委員会(理事10名+教室担当スタッフ3名)でクラブの地域における認知度が話題になり、委員の認識を集約してみると「1割台」から「7~8割は知ってもらっている」まで様々な意見が出ました。そこから、担当以外の教室の様子や会員の意識変化、クラブ運営状況等、運営委員が知らない情報の存在を課題として考えるようになりました。

3 委員全員で現状把握 行動すべき事項が浮き彫りに

各委員が意見を出し合い情報共有

自己点検・評価は年1回実施しています。各自が点検表に記入するのではなく、運営委員会の時間を30分割いて、出席した委員全員で自己点検・評価表の7つの指針について項目別に現状把握します。この過程で、委員全員が各自の意見を出し合って情報を共有していきます。毎回全員は参加出来ませんが、10年後のために今求められている行動を認識することができました。

7つの指針の自己点検・評価結果ですが、③「理念の共有」④「自発的(ボランティア)組織特性」⑤「日常生活圏」⑥「事業の多様性」の4項目の点数が2点以下となりました。今求められている行動としては、最も必要なのが③「理念の共有」で、2番目が⑥「事業の多様性」と⑤「日常生活圏」、そして3番目が④「自発的(ボランティア)組織特性」です。

7つの指針のうち運営委員会で出た意見から現状改善が必要と判断され、実際に行動を起こしたのは次の2項目です。

②「連携体制の確立」

各理事が所属している自治振興会(甲賀町内に3振興会)に積極的に働きかけようとの意見が出て、イベント等に参加・出店し「たこ焼・カキ氷・綿菓子・ポップコーン」等で活動資金を調達し始め、徐々に資金が増えています。

③「理念の共有」

クラブの思いを伝えようとの意見から、町内23区の区長にお願いし全戸に広報紙サスケを不定期ながら配布しています。

10年後を見据え実際に着手した「今すべき行動」

- ① 各教室開催の冒頭、会員の皆様にクラブ設立の趣旨を説明するとともに、法人化した思いを伝えました。
- ② まずスタッフが楽しむための「釣り教室」「遠足教室」を開講し、「ゴルフ教室」ではコンペ回数を増やしました。
- ③ 協力者の発掘(会員や知人に声をかけました)
- ④ 事実上幽霊となっている会員・スタッフの整理
幽霊会員　＝年会費納入時に保険の強制加入をお願いしました。
幽霊スタッフ＝設立当時の体育指導委員、行政職員、スポーツ振興くじ助成事業の関係で一度でも関わっていただいた有資格者の方で、過去2年間に関わりのなかった方は除外しました。

4 教室会員からの協力者が増加 クラブ役員の意識も変化

自己点検・評価を採用したことでクラブにもたらした効果と影響は以下の4項目です。

- * 幽霊会員がなくなり、4月1日現在160名の会員でコンパクトに活動ができています
- * スタッフ登録をしていない各教室会員からの協力者が増えました
- * 自治振興会や自治会から出前講座の依頼があります
- * クラブ役員も、担当ではない教室への理解が深まり、会議への出席率が向上しました

5 地域に合ったクラブを模索 若手後継者の発掘が課題

自己点検・評価を活用したことで、クラブがステップアップするために行うべき事項は認識できていますが、現状では委託事業、指定管理業務等を受ける力がないのがクラブの実態です。ただ、基礎は出来つつあり、自己財源率も95%を超えました(平成29年度末)。甲賀の地に合ったクラブを模索しながら日々試行錯誤という状況です。

また、後継者の問題もあります。設立13年目ですが、当初からのスタッフで運営している状況です。高齢化率が40%近い地域であるため、若いスタッフの発掘が悩みとなっています。

こうかサスケくらぶ クラブマネジャー 大原 克彦



こうか-すすけくらぶ

クラブ プロフィール

設立年月日 平成17年 2月27日

法人化 平成25年10月15日

所在地 滋賀県甲賀市甲賀町相模

運 営 会員160名(平成30年4月1日現在) 予算規模260万円(平成29年度)

有給職員 1名

特 徴 対象人口11,000人、滋賀県南東部、鈴鹿山系の麓。甲賀忍者発祥の地。街には3小学校1中学校、ルネス学園があります。甲賀公園体育館を中心に甲賀グラウンド、テニス場、フットサル場、生涯学習館で活動しています。小中学校の体育館、グラウンドは使わなくても活動ができます。その他町内にはB & G温水プール、トレーニングルーム、野球場、夢の森広場など沢山の施設があり、町民はプール・トレーニングルーム以外は無料で使用できるため、会場に困ることはありません。

連絡先 〒520-3434 甲賀市甲賀町相模124-7(甲賀中央公園集会所内)

電話 0478-88-5900 FAX 0748-88-3119

E-Mail info@sasuke-club.jp

URL <http://www.sasuke-club.jp>